

三遠南信道 水窪佐久間道路の事業が前進 ～ 予定地を見に、静岡県道290号に行く～

三遠南信自動車道で最後の未事業化区間であった水窪佐久間道路（水窪IC（仮称）～佐久間河合IC）は、平成31年4月に事業化。この5月15日に中心くい打ち式が挙行された（南信州新聞）。

当南信州地域にも良いニュースとあって早速、三遠南信道 水窪佐久間道路の予定地を訪問した。



県道290号の佐久間町国道473号との分岐点
左 県道290号、右 473号・152号経由で水窪へ

1. 佐久間と水窪を直線で結ぶ県道290号沿い溪谷

三遠南信自動車道水窪佐久間道路は、浜松市天竜区の佐久間町と水窪町をほぼ直線で結ぶ。現在、両町間の移動は通常国道152号と473号によるため、大きく迂回する形となって所要時間は1時間弱を要する。三遠南信道は、この静岡県道290号水窪^{みさくぼ}羽ヶ庄^{がしゅうさくま}佐久間線とほぼ並行して両町間を最短で繋げることで所要時間短縮と災害等による通行止め多発の現状からの強靱化を実現する。

スタートは佐久間側から。JR佐久間駅前から国道473号を浜松市中心部方面へ行くとまもなく県道290号との分岐点に差し掛かる。進路を左にとりJR飯田線の踏切を渡ると、ここから杉檜の鬱蒼とした木立の中を標高を稼ぐ急こう配を上る。丁度南信濃の国道152号から分かれ下栗の里に向かう感じに似ていて、路面は良好ながら対向車が来たときはすれ違いが厳しいところが多い。

二本杉峠の辺りまで来ると森林が切れ、先程通った佐久間の市街地を望むことができる。県道の反対側は、中央構造線に起因して浸食された谷を挟んで対岸に山が聳え、その山々の向こう側に天竜川が流れる位置関係にある。

2. 日本最大の断層の地層にここの地名が

そのまま進むと、もう一つの北条峠に着く。この県道は中央構造線のほぼ真上を走り、峠には中央構造線に関係した表示が見られる。説明書きによると、中央

三遠南信自動車道 水窪佐久間道路概略図



静岡県道290号 北条峠

構造線の破砕帯活動でできた粘土や黒色片岩の露頭があるという。

中央構造線は日本の地質を二分し、これを境に日本海側を内帯、太平洋側を外帯とする。内帯には中央構造線に接して花崗岩を主とした「領家帯（領家変成帯）」という地層が広がるが、「領家」はここ佐久間町から水窪町にかけての地名「領家（奥領家）」に由来する。

その昔、佐久間・水窪一帯は「山香荘」という後白河法皇が御所内に設けた長講堂（法華長講弥陀三昧堂）の荘園であった。その後武士が台頭、鎌倉幕府は承久の乱を契機として山香荘に地頭を配置する。地頭が荘園内の支配を強めると荘園領主との争いが起き、その解決として荘園と地頭の支配地を取り決めた（下地中分）。それにより前者が「領家」、後者が「地頭方」となり、その名称が現在まで北遠地域に地名として残る。領家地名が内帯側に在ったことから、内帯の代表的な地質にこの「領家」が付された。下地中分の際、領家と地頭方の境が北条峠と定められ、ここに「傍示」つまり境を示す標識を設置したことから「ホウジ峠」と呼ばれ、その後「北条峠」に転化した（「佐久間町史」）。



北条峠 中央構造線の活動による破砕帯の粘土（上）と黒色片岩（右）の露頭



町内に残る歴史地名

3. 開通までにはどれくらいの年月が

前頁概略図では、中央構造線の概略の位置を図示しているが、お分かりのように三遠南信道はこの内帯側にルートが取られている。青崩トンネルは当初、草木トンネルを経由し兵越峠側にトンネルを通すよう計画したものの、地質調査の結果これを断念し、現在掘り進むルートとなった。中央構造線の破砕帯により難工事となるが、よりましな内帯=領家帯の側にルートを取っていると考えられる。

中部地方整備局浜松河川国道事務所の資料によると、水窪佐久間道路は延長14.4kmで9つのトンネルと10の橋梁で殆どを占める。事業費は約900億円を予定。これまで述べた難しい地質に加え、厳しい地形条件の下で工事を進めることになる。工事の安全と一日も早い開通を祈念したい。

水窪、佐久間方面へ出かける際、兵越峠越えは難儀ではあるが、水窪・佐久間間の通行も結構なストレスになる。直線で結べば早いのに、と思ったものであったが、水窪佐久間道路の開通により、その頃には青崩峠道路も通行可能となっているであろうことから、南信州地域と北遠地域との交流は格段に便利になるだろう。

今回訪れた静岡県道290号沿いは、中央構造線による断層地形が当地域の大鹿村を思い起こさせ、歴史（「鎌倉殿の13人」の世界）と地学（「ブラタモリ」同）に関係した事物が多くみられる一帯だった。



国土交通省中部地方整備局浜松河川工事事務所の資料を基に、三遠南信道の概略位置を表示（右手道路が県道290号）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）